



～礼儀と節度を考える～

平成武師道

〈人間活動学〉

国家とは何か？

何となく重々しく思われるかも知れない。

しかし、最近よくこのテーマで話題になる事が多いのだ。

国家について考えてみれば、いろいろな意見が出るが、簡単に言えば、住んでいる国の事ではないだろうか。

多くの場合、住んでいる所と言えば、マンションや一戸建ての家などの建物を想像するだろう。

しかし、もっと大きく見てみれば、最大の家は国なのである。

我々に関しては日本国なのだ。

勿論、数十年後、数百年後には最大の家は地球と言える時代が訪れるかも知れないが、現段階ではまだ国レベルの時代だと思う。

中国、ロシア、アメリカ、その他の諸外国もそれぞれの家なのだ。

現に外国に行こうと思えば必ずパスポートが要る。

勝手に隣の家のドアを開けて入り、冷蔵庫の中の食べ物を食べる訳にはいかないのと同じで、外国に行く時にはやはりドアをノックしなければならない。

極端な話、巨大な災害で日本が無くなったら我々は難民になってしまう。

そのときには一体どこの国が我々を受け入れてくれるだろう？

仮にその国に住む事ができても結局借家なのだ。

このような事態にならないことを祈るが、やはり本当の家は日本なのだ。

普段、自分が食べることで精一杯なのだから国の事ばかり考えていられない。

そう考えている大人がほとんどだと思う。

しかし、これは無責任な大人。

親不孝な大人なのだ。

日本が食べていけなくなると、景気が悪くなり、治安が悪くなる。

すると誰が困るのだ。

国民である。

その為には日本が食べていけるように考えて行動していかなければならないのだ。

親が働けなくなったら子供たちは困るのと同じである。

国という大きな家には親的立場な人もいれば、子的立場もいるのだ。

だからこそ、それぞれの義務や役目を果たし、日本の家を住みやすくしていくのは当然の事。

親の財布から金を盗んだり、家出や家庭内暴力をする、できの悪いわがままな心の弱い者たちが多く見られるのが現状の日本。

それだからこそ、小さい範囲から大きな範囲の家についてバランス良く考える大人にならなければならない。

はっきり言って日本は世界で一番豊かで安心な国だ。

だが、そこに馴れてしまって、ちょっとした事でもガタガタ騒ぐようになってしまった。

そんな大人が大半だ。

だからこそ心を強く鍛え、人としてのありかた、国としてのありかたを考え、行動をとっていける大人になろう。

誰もしないことをしていく。

武師道を通じて、自分、家族、国家これらを学んでいこうではないか。

考えないよりは考える方がいいはず。

動かないよりは動く方がいいはず。

口先だけのダサイ大人にはなるな。

背中で語れる大人になろうではないか。

その為には、国家も語れないと恥だという事をわすれてはいけない。

偉そうな事を書いたが、私もまだまだ未熟。

共に学び、お互い高め合って頑張ろう！



佐々木